

新人弁護士、「かわい子ちゃん」を目指す

会員 田中 美早

1 はじめに

会員の皆様、はじめまして。77期の田中美早（たなかみさ）と申します。東京での司法修習（当会配属）を経て当会に入会し、現在はいわゆる企業内弁護士として働いております。当会広報委員会の研修員として活動させていただいているご縁で、今回執筆の機会をいただきました。

この貴重な場で何を書こうか悩みましたが、高校生の頃から新人弁護士となった今も変わらず大切にしている「ある教え」についてお話ししたいと思います。将来、忙しさのあまりこの教えを忘れてしまった自分が、改めてこのエッセイを読み返したときに、この教えと新人弁護士としての初心を思い出せるようにとの願いも込めて。

2 「かわい子ちゃんになりなさい」

私が大切にしている教えは、「かわい子ちゃんになりなさい」です。

この言葉は、私が通っていた中学校・高校の先代の校長先生が生徒たちに伝えていたものを、卒業生である数学科の先生から教えていただきました。

「かわい子ちゃん」と聞くと、見た目を磨いて誰かに媚びること？と思われるかもしれません。令和の今、何を言っているのだらうと感じる方もいらっしゃるでしょう。しかし、この言葉は決してそのような表面的な意味ではありません。

「かわい子ちゃんになりなさい」とは、困ったときに周りの人から手を差し伸べてもらえるような、愛され、信頼される人になりなさいという教えです。長い人生、自分ひとりの力だけでは乗り越えられない壁や、誰かの助けを借りることでより良い結果が出せる場面が多くあると思います。しかし、特に弁護士の仕事は、一人で抱え込みやすいとよく聞きます。右も左もわからない

新人弁護士であれば尚更助けが必要です。そのようなとき、そっと手を差し伸べてくれる人がいれば、どれだけ救われることでしょうか。そして、人から助けをもらうことで、一人では達成できなかった目標にも辿り着くことができます。

愛され、信頼される人——それはこの世界を生きていく上で何よりも強い人だと、私は思います。

3 「かわい子ちゃん」になるために

「かわい子ちゃん」になるために、私は人とのつながりが広がる機会には積極的に参加し、出会いを大切にしています。

周りから愛される人は、他者の考え方や価値観の違いを受け入れようとする広い視野を持っていると感じます。様々な人と出会い、異なる価値観に触れることで、自分自身の視野も広がっていきと考えているため、様々な人と出会える場に参加することは「かわい子ちゃん」になる大きな一歩なのです。また、自分自身の人となりや考え、価値観を周囲に伝え、知ってもらうことも大切だと思います。お互いを知り合うことで、つながりはより深くなっていくものではないでしょうか。

さらに、ご縁を一度きりにしないように心掛けています。例えば、司法修習中にお世話になった会派の皆さまとご縁を大切にし、就職後も会派に所属し、執行部や様々な活動に積極的に参加するようにしています。このような活動の中で先輩弁護士の皆さまから多いお話を伺えることが多く、右も左も分からない新人弁護士の私にとって、多くの学びを得られる大切な機会です。

忙しさに追われると、つい自分のことで精一杯になりがちですが、ひとつ一つの出会いを大切に、「かわい子ちゃん」になれるように、弁護士2年目も日々歩んでいきたいと思っています。